

組換えウシβ-1,4-ガラクトシルトランスフェラーゼ1

Cat. No. BBGYG-0001

Lot. No. (See product label)

はじめに

説明	ウシ由来β-1,4-ガラクトシルトランスフェラーゼ1 (Y289L) は、ドナー基質特異性が広く張られたβ異型ガラクトシルトランスフェラーゼであり、末端GlcNAc残基にGalNAcまたはGalNAzを転移します。
用途	O-GlcNAc修飾タンパク質の化学酵素的標識化；糖鎖エンジニアリング；下流のクリックケミストリー解析に供するアジド官能基化糖鎖複合体の調製。
別名	ウシ由来B4GALT1 (Y289L)；GalT Y289L；Y289Lβ異型β-1,4-ガラクトシルトランスフェラーゼ1

製品情報

種	ウシ (Bos taurus)
由来	組換え HEK293細胞発現；C末端Hisタグ
外形	無色～淡黄色の液体
形態	液体
分子量	50.8 kDa
比活性	2500 U/mg
特異性	末端GlcNAc残基にGalNAcまたはGalNAzを転移する。
活性化因子	Mn ²⁺
安定化剤	グリセロール20%
緩衝液	20 mM Tris-HCl、200 mM NaCl、pH 7.4
機能	末端GlcNAc残基にGalNAcまたはGalNAzを転移し、ドナーとしてUDP-GalNAzを用いた場合には反β性アジド基を導入する。
単位定義	1ユニットは、37℃において、UDP-GalNAzからGlcNAcへGalNAzを1分間あたり1 nmol転移する酵素量として定義される。
反応	UDP-GalNAz + 末端GlcNAc受容体 → GalNAz標識化生成物 + UDP
備考	Y289L置換により、ドナー基質の受容性が大きく、GalNAcおよびGalNAzが受容可能となる。
プロトコル	1. 50 mM Tris-HCl (pH 7.5) および 6 mM MnCl ₂ を用いて反応系を調製する。2. UDP-GalNAz: 抗体の当量比を 300: 1 とする。3. 酵素の添加量は抗体量に応じて 5% とする。4. 37℃で 48 時間インキュベートする。5. 反応停止のため、反応液を -25℃～-15℃ に移し、その後サンプル分析を実施する。
使い方	O-GlcNAc修飾タンパク質の化学酵素的標識および糖鎖修飾ワークフロー向け。

使用法とパッケージング

包装	100 µg 1 mg 5 mg 10 mg 50 mg
----	------------------------------

保存方法

バッチ別に推奨される保管条件下で保管してください。